

## 北斎とライバルたち

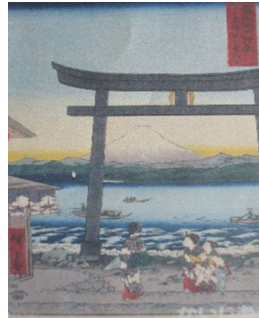
太田記念美術館 2022. 04. 22～06. 26 (前後期で全点展示替え)



「葛飾北斎」(1760～1849)は、世界的に最も名前が知られている浮世絵師で、「富嶽三十六景」に代表される風景画のほか、様々なジャンルを手がけ高い名声を得たが、その頃数多くの浮世絵師たちが「北斎」と覇権を争い、時には影響を受けたり与えたりしていた。

本展は、「北斎」作品に注目するだけでなく、「北斎」とライバルたちがどのような関係にあったかを紹介している。つまり、同時代～次の時代で活躍した「歌川広重」「東洲斎写楽」「溪斎英泉」「歌川国芳」などを幅広く取り上げ、「北斎」とその他の絵師たちがどのような関係にあったかも掘り下げている。

「北斎」が数多くのライバルたちと競合していたということは、画伯がそれぞれ様々なジャンルで活躍していたことを意味していたことである。



歌川広重 : 《富士三十六景 相模江之島入口》(前期) 左図  
葛飾北斎 : 《富士三十六景 登戸浦》(前期) 右図



東洲斎写楽 : 《二代目瀬川富三郎の大岸蔵人妻やどり木》(後期) 左図  
葛飾北斎 : 《三代目市川高麗蔵》(後期) 右図